

▼特典小説『三匹のメス豚の発情おねだり合戦な性活』

あなたはたった3日で、3匹のメス豚を手に入れた。

長女エリーゼは、ふわとろマンコに加えてアナルが使える肉便器1号。

次女アルマはややキツめのマンコと微ツンな態度がたまらない肉便器2号。

三女リタはハメただけで即イキ潮吹きするザコ穴が可愛い肉便器3号。

これでチンポを退屈させずに済む……と思っていたのだが、このメス豚たちはどうにも性欲が強く、手なずけるのが難しい。全裸で生活させているのだが、いつでもあなたのチンポをハメようと狙ってくるのだ。

朝食は、いつもアルマが作ることになっている。その間に、あなたはベッドに腰を下ろし、エリーゼとリタに朝勃ちしたチンポをしゃぶらせる。前日の夜、この中の誰かの穴にハメてマン汁臭くなったチンポを掃除させることから、あなたの一日が始まる。丁寧な玉舐めと激しい吸い付きで射精欲が沸き上がってきたら、雑にエリーゼの頭を掴んで喉奥までチンポをねじ込み、そこにザーメンを吐き出す。上目遣いでうるんだ瞳を向けるエリーゼに腰を押し付けて尿道に引っかかった一滴まで吸い出させてから引き抜くと、リタがエリーゼの口に舌をねじ込んで、喉奥にこびりついた精液をかき出そうとする。

食後はリタが食器洗いを担当する。エリーゼは近場の川へと洗濯に出るので、その隙に朝一チンポを味わえなかったアルマが、あなたの顔にマンコを押し当てて誘惑する。昨晚付けた種が穴から逆流してくるのを感じて、あなたはアルマの尻肉を強くたたく。そして両手の親指でトロトロの割れ目を開くと、そのまま最奥部までチンポを一気にねじ込んだ。「オッ」と鈍く強い喘ぎ声を漏らしたアルマに、乱暴なまでのピストンで子宮をぐちゃぐちゃに犯す。

そこに、あなたとアルマの行為の音を聞きつけたリタが飛んでくる。リタはあなたに見せつけるようにオナニーをしながら、アルマへの種付けが終わるのを待つ。ぶびゅっと種付けしてやると、姉であるアルマを押しつけてベッドに仰向けになり、こちらも陰部をぐばっと開いて挿入をおねだりする。床にへたり込んでマン尻を漏らしているアルマを横目に、リタに挿入すれば、入れた瞬間に白目をむいてイキ潮を噴き散らかす。構わずに子宮をチンポで責め続けると、絶頂に合わせてぎゅうぎゅうと膣肉がチンポに絡みついて射精をねだる。あなたは何のためらいもなく、リタのマンコも精液で満たしてやる。

2人が次にハメてもらうのはどちらかで揉めていると、そこにエリーゼが帰ってきた。彼女はあなたに飛び掛かってマンコに生ハメをおねだりするが、あなたはそれを許さない。その場で四つん這いにして尻穴を開くと、決して孕むことのできないその穴を何度も犯しつくしてその奥に吐精する。

「さて……」

あなたは額の汗を腕で拭って、精液まみれになった3匹のメス豚を見下ろす。

「次は、どの穴が相手してくれるんだ？」

3匹は期待に満ちた表情であなたを見つめ返し、穴を開いて誘っている。
……これが、メス豚を飼育し始めたあなたの日常である。